

池ですね。9月15日頃はエゾリンドウの花の盛り。一人で、よく来た。長江のフタマタまでは歩きやすい道、それからは炭焼道。アケボノソウもいっぱいある所です。池の南側の林にはハクサンシャクナゲもみられた」と。池の東南のすみに東西 4m、南北 3m の小さな池がある。この池だけにジュンサイが生育する。池の大きさは15年前と変わらない。

挺水植物はミツガシワ、浮水植物はジュンサイ、沈水植物はアオミドロ（属）とすみわけている（階層に配置）。

(1) ジュンサイ スイレン科ジュンサイ属の浮水植物。佐渡奉行所編の『佐渡誌』（1816）に「尊 和名ぬなは。方言じゅんさい。池沼中に生ず。加茂郡中の美味とす」と記される。明治 20 年代の農事暦には「夏五日（陰暦）ジュンサイ取るべしシナ皮むくべし」とあり、江戸時代から明治にかけて、佐渡の各地になお多くの沼沢や池がみられジュンサイが産した。現在（1992年）、ジュンサイの生育する池は、このジュンサイ池ぐらいなもので、希産・貴重な植物（群落・種）である。

(2) ミツガシワ リンドウ科ミツガシワ属の水草。カシに

似た3枚の葉をつけるのでこの名がある。花冠は五裂の白花で内側に白毛が密生する。春季植物。

果実の化石は氷河期の寒冷気候を示す地層から多く産出することから氷河期に栄えた遺存種といわれている。高山の湿原や沼などに生えるが、遺存（残存）植物として低地にも生えている。希産・貴重植物である。

(3) ヌマハリイ カヤツリグサ科ハリイ属の多年草。池や沼に群生する。金北山の東方の尾根近くの海拔 1000mの雨池はヌマハリイの純大群落である。

2. ミツガシワ-ヒメシダ群落（表2）

湿原のおよそ 70 %は、ミツガシワ-ヒメシダ群落である。この群落の下生はミズゴケが一面繁茂し歩くとジュブ-ジュブとぬける。ミツガシワ-ジュンサイ群落が陸化するとジュンサイは消え、ミツガシワ-ヒメシダ群落へと湿性遷移する。

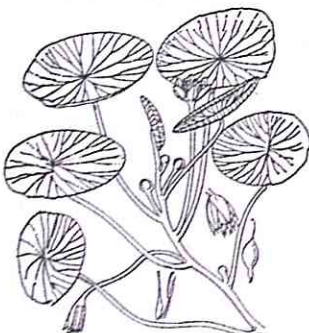
構成種のヒメシダ・アゼスゲ・エゾシロネ・エゾリンドウなどは佐渡の湿原にふつうに出現する湿原主要構成種である。

表2. ミツガシワ-ヒメシダ群落（調査地番号②・調査面積5×5m²）

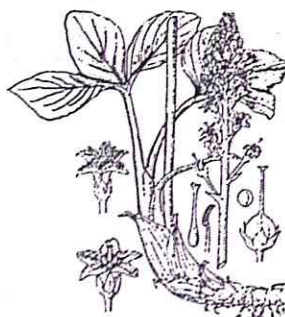
階層	優占種	群落高	植被率	種数	環境
草本層	ミツガシワ	40cm	100%	7	水湿地
苔層	ミズゴケ（類）	8cm	100%	1	水湿地
草本層	ミツガシワ4・4 エゾシロネ+ エゾリンドウ+	ヒメシダ1・2	セキショウ1・1	アゼスゲ+ スギナ+	
苔層	ミズゴケ（類）5・5				



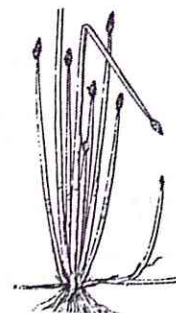
ジュンサイ池湿原全景



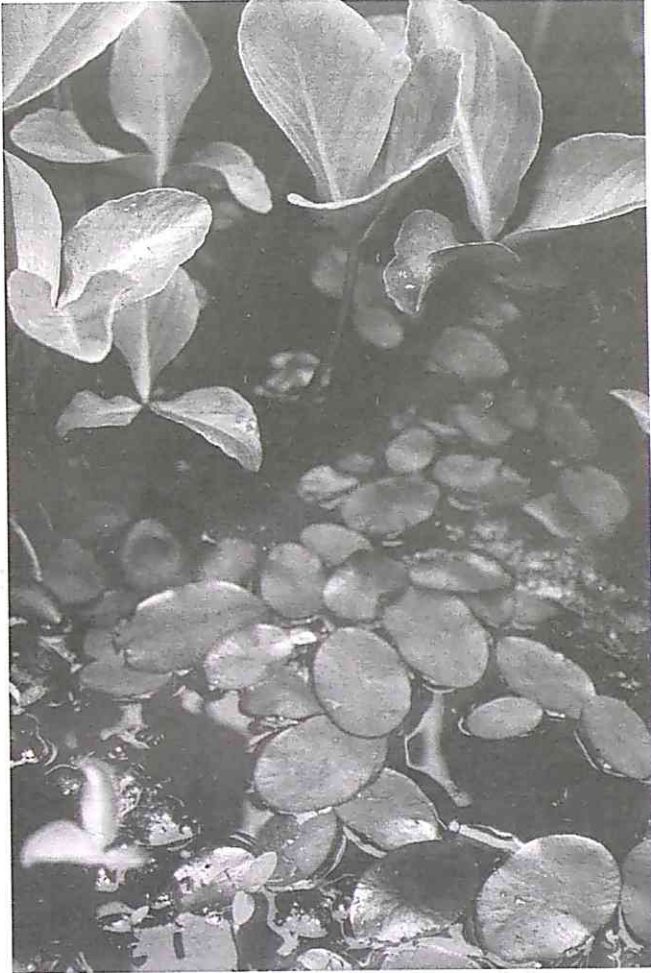
ジュンサイ【牧野】



ミツガシワ【牧野】



ヌマハリイ【牧野】



ミツガシワ ジュンサイ



ミツガシワ



セキショウ



ヒメシダ

3. ヒメシダ-アゼスゲ群落 (表3)

表3. ヒメシダ-アゼスゲ群落 (調査地番号③・調査面積5×5m²)

階 層	優 占 種	群 落 高	植 被 率	種 数	環 境
草 本 層	ミツガシワ	40cm	100%	7	湿 地
苔 層	ミズゴケ (類)	8cm	100%	1	湿 地
草 本 層	ヒメシダ5・5 (H = 25cm) エゾリンドウ+2 (H = 40cm) ホソバノヨツバムグラ+	アゼスゲ2・2 (H = 30cm) ミズオトギリ+ エゾシロネ+			
苔 層	ミズゴケ (類) 5・5				

ミツガシワ-ヒメシダ群落がさらに陸化すると水性植物のミツガシワは消え、ヒメシダ-アゼスゲ群落となる。

4. レンゲツツジ-ヒメシダ群落

湿原の陸化は、どの湿原にもおきているものである。ジュンサイ池湿原も陸化に伴ない、周辺の林の構成種が湿原に侵入する。侵入度の最も強いものはレンゲツツジとハイイヌツゲである。酸性・貧養・乾燥の立地のパイオニヤが、これ

らの植物である。次いでノイバラ、リョウブ、ヤマウルシ次いでナナカマド、ハウチワカエデ、さらに次いでタイツリスゲ、ナツトウダイ、そしてススキまでも侵入する。

表4. レンゲツツジ-ヒメシダ群落 (調査地番号④・調査面積2×2m²)

階 層	優 占 種	群 落 高	植 被 率	種 数	環 境
低 木 層	レンゲツツジ	65cm	60%	2	湿 地 内 の 陸 化 部
草 本 層	ヒメシダ	30cm	70%	4	
苔 層	ミズゴケ (類)	6cm	80%	1	
低 木 層	レンゲツツジ3・3	リョウブ+			
草 本 層	ヒメシダ3・3	アゼスゲ3・2	ミツガシワ1・1	ミズオトギリ+	
苔 層	ミズゴケ (類) 4・4				

5. ジュンサイ池湿原の湿性遷移

池や沼から出発する遷移が湿性 (水性) 遷移である。ジュンサイ池も湿性遷移系列上のいくつかのステージがみられ

る。このジュンサイ池も、いわゆる乾陸化するが、その遷移系列は次の様である。

〈遷移系列〉

ミツガシワ-ジュンサイ群落 (堪水地) → ミツガシワ-ヒメシダ群落 (水性地) → ヒメシダ-アゼスゲ群落 (湿性地) → レンゲツツジ-ヒメシダ群落 (陸化地)

III. ジュンサイ池周辺の植物相

大佐渡山地の国仲斜面における植生の垂直分布は、本間建一郎の「佐渡の自然植生」(1972)によれば、低地丘陵帯 (海拔100m以下) はヤブツバキ帯、山地の山麓帯 (海拔100 - 400m) はコナラ-アカマツ帯、山腹帯 (海拔400 - 1000m) はミズナラ-ブナ帯、山頂・脊稜帯 (海拔1000m以上) はミヤ

マナラ帯である。

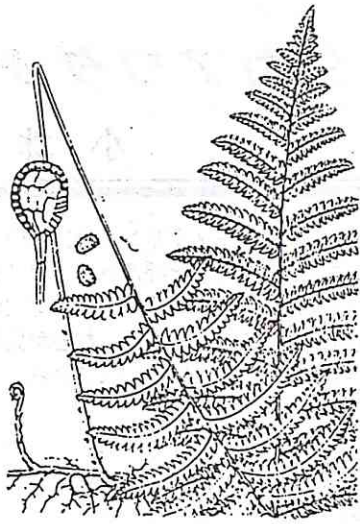
大佐渡山地の国仲斜面の山腹海拔 480m にあるジュンサイ池周辺の植生帯は、ミズナラ-ブナ帯であり、池はミズナラ林でかまれている。ジュンサイ池周辺の林には、およそ次の様な植物がみられた。但し湿原内の植物は除く。

高 木 ミズナラ、ホオノキ、スギ

中 木 ヤマモミジ、オノエヤナギ、ベニヤマザクラ、オオカメノキ、タムシバ、ナナカマド

低 木 タニウツギ、ツノハシバミ、ヤマウルシ、ハイイヌツゲ、オオバクロモジ、ハイイヌガヤ、エゾユズリハ、ホツツジ、レンゲツツジ、ウワミズザクラ、コバノトネリコ、ヒメアオキ

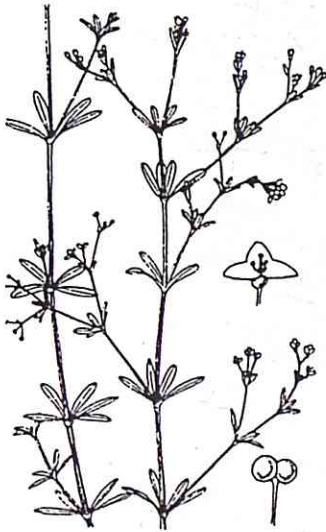
草 本 ゼンマイ、ハンゴンソウ、オオイタドリ、アマニュウ、フキ、ミヤマイトチシダ、ミヤマカンズゲ、オオイワカガミ、シラネアオイ、カタクリ、オオタチツボスミレ、ミズオトギリ、ミゾソバ、セキショウ、ザゼンソウ



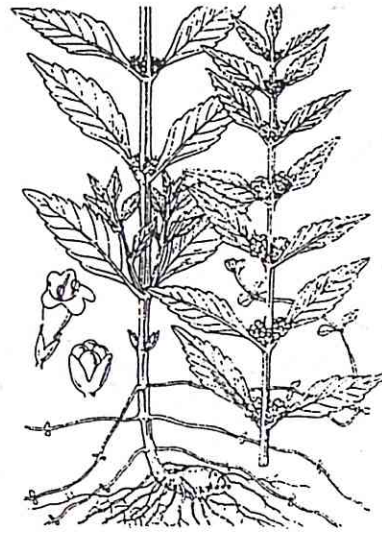
ヒメシダ [牧野]



アゼスゲ [牧野]



ホゾバノヨツバムグラ [牧野]



エゾシロネ [牧野]

〈要約〉

1. ジュンサイ池は、大佐渡山地の国仲斜面、金北山（海拔 1172m）の山腹、海拔 480m 地にある。
2. 池は山腹の平坦向陽地にあり、南北 30m、東西 40m、広さ 12aで、池の 95%は、植物で占められ、池というより湿原である。
3. ジュンサイは、池の東南の隅の東西 4m、南北 3m の小さな湛水池にみられるだけである。
4. 湿原はミツガシワを優占種とし、ヒメシダ、アゼスゲ、ミズゴケ（類）を主要構成種とする低層湿原である。
5. 湿原の陸化に伴い、ミツガシワ→ジュンサイ群落→ミ

ツガシワ→ヒメシダ群落→ヒメシダ→アゼスゲ群落→レンゲツツジ→ヒメシダ群落の湿性遷移系列がみられる。

6. 周辺の林はミズナラ林域で、主要構成種はミズナラ・ブナ林要素植物である。

7. 大佐渡山地馬首川上流、海拔 600m にある上の平湿原 (21a) に次ぐ湿原で、湿原の少ない佐渡にとって稀少・貴重なものであり、まわりの林も広く残し保護することが肝要である。(1992・7・8記)

いとうくにお

現住所 〒 952-12 新潟県佐渡郡金井町千種 106-2